

様式第 8

平成 2 8 年度循環型社会形成推進地域計画目標達成状況報告書

地域名	構成市町村等名	計画期間	事業実施期間
鈴鹿市	(鈴鹿市)	平成 23 年度～平成 27 年度	平成 23 年度～平成 27 年度

1 目標の達成状況
(ごみ処理)

指 標	現状 (割合※ 1) (平成20年度)	目標 (割合※ 1) (平成28年度) A	実績 (割合※ 1) (平成28年度) B	実績B /目標A	
排出量	事業系 総排出量	17,836 t	15,975 t (-10.4%)	20,177 t (13.1%)	126.3%
	1 事業所当たりの排出量	9.13 t	8.81 t (-3.5%)	11.31 t (23.9%)	128.3%
	家庭系 総排出量	53,223 t	57,293 t (7.6%)	46,460 t (-12.7%)	81.1%
	1 人当たりの排出量	196.33 kg/人	182.43 kg/人 (-7.1%)	181.10 kg/人 (-7.8%)	99.3%
合 計 事業系家庭系総排出量合計	71,059 t	73,268 t (3.1%)	66,637 t (-6.2%)	90.9%	
再生利用量	直接資源化量	6,971 t (9.8%)	8,591 t (11.7%)	2,707 t (4.1%)	31.5%
	総資源化量	19,154 t (27.0%)	25,519 t (34.8%)	15,458 t (23.2%)	60.6%
熱回収量	熱回収量 (年間の発電電力量)	8,066 MWh	7,526 MWh	10,921 MWh	
減量化量	中間処理による減量化量	48,722 t (68.6%)	48,431 t (66.1%)	53,066 t (79.6%)	109.6%
最終処分量	埋立最終処分量	6,649 t (9.4%)	4,071 t (5.6%)	1,618 t (2.4%)	39.7%

※ 1 排出量は現状に対する割合、その他の指標は排出量に対する割合

(生活排水処理)

指 標	現 状 (平成 年度)	目 標 (平成 年度) A	実 績 (平成 年度) B	実績B /目標A
総人口				—
公共下水道	汚水衛生処理人口			%
	汚水衛生処理率又は汚水処理人口普及率	%	%	%
集落排水施設等	汚水衛生処理人口			%
	汚水衛生処理率又は汚水処理人口普及率	%	%	%
合併処理浄化槽等	汚水衛生処理人口			%
	汚水衛生処理率又は汚水処理人口普及率	%	%	%
未処理人口	汚水衛生未処理人口			%

2 各施策の実施状況

施策種別	事業番号	施策の名称等	実施主体	施策の概要	事業実施期間 (事業計画期間)	施策の実績
発生抑制、再使用の推進に関するもの	11	家庭ごみ収集の有料化検討	鈴鹿市	・市民の意識調査及び導入検討	H17-H27	・平成 28 年度実績 市民アンケートを実施
	12	粗大ごみ戸別有料収集業務	鈴鹿市	・1 点 200 円の戸別有料収集	H9-H27	・平成 9 年度業務開始 ・平成 28 年度実績 12, 571 件/29, 971 点
	13	ごみ分別等啓発	鈴鹿市	・ごみの分別・排出方法の啓発	H5頃-H27	・毎年『家庭ごみの分け方・出し方』 (リーフレット)を各戸配布 ・平成 28 年度実績 100, 000 枚
	14	廃棄物減量等推進員制度	鈴鹿市	・分別の徹底及びごみ減量を目的として原則 1 自治会 1 名設置 (任期 2 年)	H9-H27	・平成 28 年度実績 廃棄物減量等推進員 756 名
	15	リサイクルフェア	鈴鹿市	・粗大ごみとして回収された使用可能なもの等を希望者に無償提供	S60-H23	(利用者減少のため平成 23 年度廃止)
	16	リサイクルくるくる市場	鈴鹿市	・本市のHP上の電子掲示板でリサイクル情報を発信	H10-H27	(利用者減少のため平成 27 年度廃止)
	17	おもちゃ病院「トイなおす」の支援	鈴鹿市	・おもちゃを原則無料で修理するボランティア団体への活動支援	H15-H27	・年 4 回開催/1 回平均 40 点の受付 ・平成 28 年度実績 4 回開催/174 点受付
	18	資源ごみ回収活動奨励金	鈴鹿市	・資源ごみ回収活動を実施する団体に対し奨励金を交付	H3-H27	・平成 28 年度実績 111 団体/10, 261, 176 円
	19	生ごみ処理容器購入費助成金	鈴鹿市	・生ごみの排出抑制、リサイクルを目的として購入者に対して助成金を交付	H4-H27	・平成 28 年度実績 111 件/794, 700 円
	20	あき缶ポスト	鈴鹿市	・公共施設での拠点回収	H5-H27	・平成 28 年度実績 アルミ缶 2, 700kg スチール缶 3, 150kg

発生抑制、再使用の推進に関するもの	21	出張！ごみ博士	鈴鹿市	・小学4年生対象のごみとリサイクルに関する出前講座	H16-H27	・平成28年度実績 市内30校中22校で実施
	22	ごみ減量を考えるポスターコンクール	鈴鹿市	・市内の小中学生より募集 ・作品の展示・表彰 ・優秀作品を次年度の啓発冊子に掲載	H5-H27	・平成28年度実績 応募数 小学生低学年 11点 小学生高学年 11点 中学生 11点
	23	ごみ減量推進店等制度	鈴鹿市	・ごみ減量に取り組む市内の店舗等を認定、表彰	H13-H27	・平成28年度実績 15店舗／32事業所／3グループ
処理体制の構築、変更に関するもの	21	一般廃棄物処理基本計画策定	鈴鹿市	・一般廃棄物の適正処理を目的とした計画を5年ごとに策定	H25	・平成25年度策定完了 次回は平成30年度に策定
	22	容り法 その他プラ収集	鈴鹿市	・プラスチック製容器包装リサイクル開始（平成22年度）	H21-H27	・平成28年度実績 引渡し量 1,930,780kg
処理施設の整備に関するもの	1	最終処分場	鈴鹿市	・最終処分場建設事業	H23-H25	・平成25年度完了
	2	鈴鹿市清掃センター改修対策事業	鈴鹿市	・既存焼却施設の延命化、二酸化炭素排出削減対策の促進	(H28-H32)	・平成28年度 設計 ・平成29年度～ 基幹的設備改良工事
施設整備に係る計画支援に関するもの	31	2の計画支援	鈴鹿市	・事業者選定アドバイザー業務	H27	・平成27年度完了
その他	51	まちかど美化推進	鈴鹿市	・不法投棄定期パトロール	H14-H27	・平成28年度実績 不法投棄回収量 58,990kg
	52	災害時対策	鈴鹿市	・災害廃棄物処理マニュアル等の作成	H20-H27	・平成26年度 『鈴鹿市災害廃棄物処理計画』策定 ・平成27年度 『鈴鹿市清掃センターBCP指針』策定

※今回の計画外の施策については、事業実施期間を()書きとしている。

3 目標の達成状況に関する評価

(排出量)

目標の73,268tに対して、実績は66,637tとなり、目標を達成することができた。

家庭系ごみについては、ごみの排出抑制やリサイクルに関する市民の意識が向上ことや、平成22年度に開始したプラスチック製容器包装リサイクルが定着してきたことなどが成果としてあらわれたものと考えられる。

ただし、事業系ごみについては、目標の15,975tに対して、実績は20,177tとなり、目標を達成することができなかった。

こちらは、別添「循環型社会形成推進地域計画改善計画書」にて目標が達成できなかった要因及び目標達成に向けた方策を記載する。

(再生利用量)

直接資源化量は、目標の8,591tに対して、実績は2,707tとなり、目標を達成することができなかった。

総資源化量は、目標の25,519tに対して、実績は15,458tとなり、目標を達成することができなかった。

こちらは、別添「循環型社会形成推進地域計画改善計画書」にて目標が達成できなかった要因及び目標達成に向けた方策を記載する。

(熱回収量)

目標の7,526MWhに対して、実績は10,921MWhとなり、目標を達成することができた。

これは、ごみの分別を徹底したことにより、不燃物等の混入割合が減り、熱回収効率が向上したためと思われる。

(減量化量)

目標の48,431tに対して、実績は53,066tとなり、目標を達成することができた。

これは、不燃物リサイクルセンター内にて「容器包装プラスチック処理施設」及び「不燃・粗大ごみ処理施設」が新設され、ごみの分別能力が向上したためと思われる。

(最終処分量)

目標の4,071tに対して、実績は1,618tとなり、目標を達成することができた。

これは、不燃物リサイクルセンター内にて「容器包装プラスチック処理施設」及び「不燃・粗大ごみ処理施設」が新設され、ごみの分別能力が向上したためと思われる。

(都道府県知事の所見)

循環型社会形成推進地域計画に基づき、ごみの発生抑制、処理体制の構築、処理施設の整備等の施策が着実に実行され、家庭系ごみの排出量の減少、熱回収量、減量化量の増加、最終処分量の減少についての目標が達成されており、地域の循環型社会形成に成果を上げていると評価できます。

一方で事業系ごみ排出量が増加しているため、事業者に対してごみ減量の啓発を実施するなどの対策が望まれます。

さらに、再生利用量が減少しているため、市民に対して分別排出について周知徹底するなど循環型社会形成に向けた更なる取組が望まれます。

循環型社会形成推進地域計画改善計画書

地域名	構成市町村等名	計画期間	事業実施期間
鈴鹿市	(鈴鹿市)	平成23年度～平成27年度	平成23年度～平成27年度

1 目標の達成状況
(ごみ処理)

指 標	現 状 (平成20年度)	目 標 (平成28年度) A	実 績 (平成28年度) B	実績B /目標A	
排出量	事業系 総排出量	17,836 t	15,975 t	20,177 t	126.3%
	1 事業所当たりの排出量	9.13 t	8.81 t	11.31 t	128.3%
	家庭系 総排出量	t	t	t	%
	1 人当たりの排出量	kg/人	kg/人	kg/人	%
合 計 事業系家庭系総排出量合計	t	t	t	%	
再生利用量	直接資源化量	6,971 t	8,591 t	2,707 t	31.5%
	総資源化量	19,154 t	25,519 t	15,458 t	60.6%
熱回収量	熱回収量 (年間の発電電力量)	MWh	MWh	MWh	
減量化量	中間処理による減量化量	t	t	t	%
最終処分量	埋立最終処分量	t	t	t	%

※目標未達成の指標のみを記載。

(生活排水処理)

指 標	現 状 (平成 年度)	目 標 (平成 年度) A	実 績 (平成 年度) B	実績B /目標A
総人口				—
公共下水道	汚水衛生処理人口			%
	汚水衛生処理率又は汚水処理人口普及率	%	%	%
集落排水施設等	汚水衛生処理人口			%
	汚水衛生処理率又は汚水処理人口普及率	%	%	%
合併処理浄化槽等	汚水衛生処理人口			%
	汚水衛生処理率又は汚水処理人口普及率	%	%	%
未処理人口	汚水衛生未処理人口			%

※目標未達成の指標のみを記載。

2 目標が達成できなかった要因

(事業系ごみ排出量)

目標を達成できなかった要因は、可燃系ごみに混入する紙類の割合が依然として高く、事業系ごみの分別・資源化が十分とはいえないこと、また、排出事業者の責務についての啓発が不足していること等が考えられる。

しかしながら、直近の平成28年度に関しては、前年度と比較してわずかだがごみ量が減少に転じた。

(再生利用量)

再生利用量の減少が著しい古紙類については、紙の使用量の減少や民間回収の拡大などが要因としてあげられるが、パンフレット・カタログ・ノート・コピー紙といった雑がみが資源化可能な品目であることが市民に浸透していないことも要因のひとつと考えられる。

3 目標達成に向けた方策

目標達成年度 平成33年度まで

(事業系ごみ排出量)

事業者に対する啓発の方法を具体的に検討し、実施する。

また、事業所への訪問・立入調査による指導や、処理施設での搬入物検査に力を入れるとともに、受け入れ品目の制限や搬入手数料の見直しも検討する。

(再生利用量)

集団回収への支援や生ごみ処理機の購入費助成に引き続き取り組むとともに、ごみの分別や資源化について、広報等を通じて効果的な啓発を行い、資源回収の向上に努める。

特に、雑がみについて具体的に周知することで、雑がみを再生資源として排出してもらい易くなる方策をあわせて検討する。

(都道府県知事の所見)

循環型社会形成推進の目標の達成に向けて、事業系ごみ減少に向けた啓発や再生利用量増加のための市民への分別方法等の周知を確実に進めることが望まれます。

事業系ごみについて、受け入れ品目の制限や搬入手数料の見直しを行う場合は、事業者に対して廃棄物を適正に処理するよう指導することが望まれます。

県としても、目標の達成のために必要に応じて情報提供や助言等の支援を行います。